

COOメッセージ 03
EVOLUTION:
Our 2026 Business Theme
Ambition. Automation. Action.

05 TORISHIMA × SNM
トリシマ × 新日本造機
志を一つに、世界のインフラを支えよう



下仁井田排水機場

ユーザー訪問記 216
先人の想いを受け継ぎ
豊かな農業を次代へ

いわきおがわえすじ 磐城小川江筋土地改良区 11

16 ニュースの窓



後谷地排水機場

07 激甚化する水害から
かけがえのない日常を守り抜く
ジャパン・レジリエンス・アワード
最優秀賞受賞

耐水モーター体型ポンプが
企業・産業部門における最高位を受賞



最優秀賞
ジャパン・レジリエンス・アワード
2026

13 Project Highlights



19 新入社員
若狭湾研修

今年も、自分たちの力で成長する
Organic Growth (自律成長) の
仕上げの一年です。

CEO 原田耕太郎

CEO MESSAGE

トリシマは、人間の生活に欠かせない「水と電気」を支え、世界中から信頼される「社会に欠かせない企業」であり続けることを目指し、2050年の長期ビジョンを掲げています。現在は、その実現に向けた重要な段階である「STEP期間(2025～2029年度)」にあり、「売上高1,000億円、営業利益率10%、ROE10%」という目標に向かって邁進しています。これまで自分たちの技術と足で市場を切り拓いてきた「Organic Growth (自律成長)」の成果は、今まさに国内外で実を結ぼうとしています。



国内では、浸水被害から街を守る「耐水モーター一体型ポンプ」を、全国の排水機場へ紹介するプロジェクトに向けての営業活動を加速しています。海外に目を向ければ、米国ではAI時代の到来に伴うデータセンター需要を背景に、発電所向けポンプの受注が年間100億円規模に達しています。香港では1秒間に50トンもの水を排水する雨水排水機場向けプロジェクトが動き出し、中東では海水淡水化プラントで造った水を内陸部に送る大型送水ポンプが圧倒的な信頼を得ています。これらの実績は、現場で限界に挑み続ける私たちの団結力が、名実ともに世界トップレベルにあることの証明にほかなりません。

さらに、この7月にはトリシマに「新日本造機」という心強い仲間が加わります。今まで続けてきた自律的な成長にプラスして、仲間を増やして共に伸びていく「External Growth (外部成長)」の大きな一歩です。この新たな出会いは、私たちの可能性を大きく広げてくれることに違いありません。これと同時に、私たちはさらなる成長に向けてカーボンニュートラル分野への挑戦も加速させています。液化水素、液化アンモニア、液化二



酸化炭素の移送。これら次世代エネルギー市場のインフラ構築において、私たちはすでに世界初となる液化水素の商用プラント向けに「超電導モータ液化水素ポンプ」を受注するなど、具体的な成果を上げ始めています。

2026年度の経営方針は、「Organic Growth（自律成長）の仕上げ」です。現在、私たちは急激な成長の過程におり、その分、乗り越えなければ

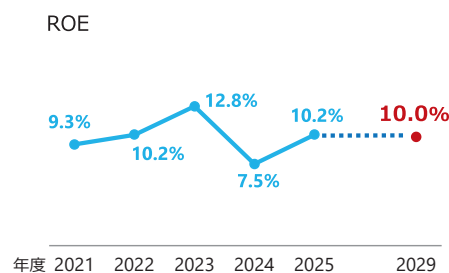
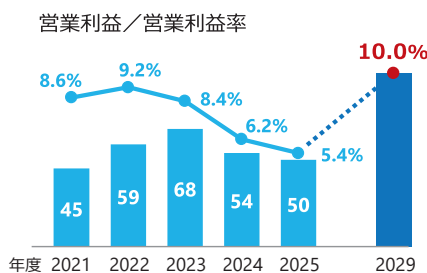
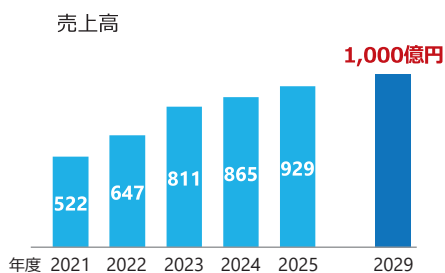
ならない課題も多くあります。これらを一つひとつ確実にクリアし、積み上げてきたプロジェクトを完遂する。この「仕上げ」を徹底的にやり抜くことで、次なる躍進に向けた強固な土台が完成します。トリシマには、困難な状況を力に変えてきた歴史があります。この「仕上げ」を共にやり抜き、より強靱な企業体へと進化していきましょう。

（2026年3月18日 経営方針会議にて）

HOP期間実績及びSTEP期間最終年度の目標

	HOP期間（2021-2024年度）		STEP期間（2025-2029年度）	
	2021年度 実績	2024年度 実績	2025年度 実績	2029年度 目標
売上高	522	865	929	1,000億円
営業利益 (営業利益率)	45 (8.6%)	54 (6.2%)	50 (5.4%)	100億円 10%
ROE	9.3%	7.5%	10.2%	10%

※本計画の2029年度の目標はオーガニック・グロースによる達成を見込むものです。新日本造機株式会社の連結子会社化完了後、M&Aによる成長を反映した修正計画を公表いたします。



EVOLUTION: Our 2026 Business Theme

Ambition. Automation. Action.

Alister Flett Director, COO



As we enter 2026, Torishima stands at an important crossroads. We have achieved record sales, TGT has grown from 3 offices to over 35 sites across 20 countries, and built a reputation as a world leader in pump manufacturing. That is something every one of us should be proud of.

But pride alone will not take us to our 2029 target of ¥100 billion in sales, 10% operating profit, and a true No.1 position in our markets. To get there, we need to be honest about where we are today.

In 2026, improving our financial performance is the challenge we must face together. And the answer begins close to home.

Japan is Our New Growth Engine

For many years, Japan was seen as a stable but slow market. Not anymore. Our domestic service revenue has doubled in the last ten years, and with the addition of Shin Nippon Machinery, which will become a partner on July 1st, we now see remarkable new opportunities across both power generation and the O&G service market. A strong Japan business strengthens the entire Torishima group — it is the foundation on which everything else is built.

This is not a small point. When our home market is strong, we have the confidence and the resources to compete boldly overseas.

Staying True to Our Core Strengths

Globally, our strategy is clear: focus on what we do better than anyone else. Our core products — boiler feed pumps, high-pressure reverse osmosis pumps, and huge water transmission pumps — place us in a market position that our competitors simply cannot match. Many of them are stepping back from engineered pumps altogether. We are stepping forward.

This focus is not about limiting our ambition. It is about directing our energy where Torishima has the greatest competitive advantage and the strongest margins.

So this year, Torishima's business theme is **Triple-AAA: Ambition, Automation, and Action.**

Ambition means aiming higher — in Japan and in every market we serve.

Automation means building smarter, more connected systems so our teams can act with speed and confidence.

Action means doing the right things every day — submitting quotations on time, keeping delivery dates updated, and never letting a customer down.

In 2026, senior management's commitment is simple: rather than giving you all the answers, we will ask you the right questions — questions that help you think, grow, and find better solutions together.

The best ideas in this company are not sitting in a boardroom. They are sitting right where you are.

Let's grow together. Acta Non Verba.

Ambition

What if ?
もしも……？

What is the aim ?
目的は何？

Am I committed ?
本気で取り組んでいるか？

How can I influence ?
どうすれば影響を与えられるのか？

Automation

Where can the human add value here ?
人間が付加価値を付けられるのはどこか？

What does the next person need to make their job easier ?
次の工程の人が仕事を楽に進めるために、何が必要か？

Which part of the current system do we need to keep ?
現在のシステムのうち、残すべき部分はどこか？

Is this creating work or adding to our work ?
「作業」を生み出しているだけですか、それとも「価値ある仕事」に繋がっていますか？

Action

What now ?
今何をすべきか？

What is my first / next step ?
最初の一步/次の一步は何か？

What assistance do you need from me ?
どんなサポートを求めているか？

What am I doing - or not doing - that is slowing you down ?
私がしていること、またはしていないことで、あなたの足を止めていることはあるか？

What are the barriers that are preventing you moving forward ?
皆さんの前進を妨げている「壁」は何ですか？

EVOLUTION : 2026年度 経営テーマ

Ambition (野心) / Automation (自動化) / Action (実行)

取締役COO Alister Flett

2026年、トリシマは重要な転換点を迎えました。世界20カ国36拠点への拡大と過去最高売上達成は、私たち全員が誇るべき成果です。しかし、2029年度目標（売上高1,000億円、営業利益率10%、世界No.1）を成し遂げるには、現状を直視し、財務パフォーマンスをさらに向上させなければなりません。

日本：新たな成長エンジン

日本市場は安定しているものの成長は緩やかだと見なされてきました。しかし、今は違います。国内のサービス事業収益はこの10年で倍増しました。さらに、7月からの新日本造機の参画により、エネルギー・石油ガス分野で大きなチャンスが広がっています。この強固な国内基盤こそが、海外へ挑戦するための自信と原資を生み出します。

強みへの集中

私たちの戦略は明確です。他社が撤退しつつある受注生産型ポンプの領域で、発電所向けボイラ給水ポンプ、RO海水淡水化向け高圧ポンプ、大型送水ポンプといった圧倒的優位性を持つコア製品にエネルギーを集中させます。勝てる場所で戦うことが、高い利益率に繋がります。

2026年の指針：Triple-AAA

これらを踏まえ、今年のビジネス・テーマを「トリプルA」と定めます。

- **Ambition (野心) :**
日本、そして私たちが展開するすべての市場において、より高い目標を掲げること。
- **Automation (自動化) :**
よりスマートで連携されたシステムを構築し、チームが迅速かつ自信を持って動ける環境を整えること。
- **Action (実行) :**
日々の「正しい行動」を積み重ねること。見積書を期日どおりに提出する、納期情報を常に最新に保つ、そして決して一人の顧客も失望させない。

2026年、私たち経営陣は、一方的に答えを与えるのではなく、皆さんに「正しい問い」を投げかけます。皆さんが自ら考え、成長し、共に最善の解決策を見つけ出すための助けとなる問いです。最高のアイデアは、役員会議室に転がっているわけではありません。それは、今このメッセージを読んでいる皆さんの「現場」にこそあるのです。

共に成長していきましょう。

Acta Non Verba (不言実行 — 言葉ではなく、行動で)

トリシマ×新日本造機 志を一つに、世界のインフラを支えよう

前号でもお伝えしたとおり、このたびトリシマグループに、新たな仲間として新日本造機株式会社（以下、新日本造機）をお迎えすることとなりました。2026年7月1日のDay1に向けて、今まさに両社は志を一つにする準備を進めています。今回は、新日本造機が歩んできた歴史や強み、そして私たちトリシマとの共通点をご紹介します。新日本造機の舵取りを担う迫田社長からも、心強いメッセージをいただきました。



100年の研鑽が息づく「呉」の地から

新日本造機の技術的源流は、1920年に開庁した「呉海軍工廠廣支廠（後の廣海軍工廠）」にまでさかのぼります。戦後、その高度な技術精神と跡地を継承した技術者たちの情熱により、1951年に「廣造機株式会社」が創立されました。これが、**自社製品へのこだわりと誇りを貫く現在の新日本造機の原点**となります。その後1973年、オイルショックという未曾有の不況下「廣造機株式会社」と「日本水力工業株式会社」が合併し、「新日本造機株式会社」が誕生。以来50余年、**自社ブランド「SHIN NIPPON」を掲げ、自律したメーカーとして歩み続けてきた歴史**が、現在の社員一人ひとりの揺るぎない誇りとなっています。

新日本造機ってどんな会社？

世界中で活躍するSHIN NIPPONブランド

広島県呉市の呉製作所では、今も戦前から受け継がれる歴史ある建屋が大切に使われ、当時の**技術者たちの情熱を今に伝えています**。ここで造られるのは、エネルギー効率を極限まで追求した「蒸気タービン」と、過酷な環境下で動き続ける「プロセスポンプ」です。オーダーメイドで一つずつ、わが子の成長を見守るようなまなざしで丁寧に仕上げられる製品はまさに「**技術の結晶**」で、今や世界中で活躍しています。



トリシマと新日本造機、これまで異なる道を歩んできた両社の理念を紐解いてみると、そこには驚くほど多くの共通点があり、私たちが「大切にしていること」の根底が、不思議なほど似通っていることに気づかされました。

トリシマと新日本造機が
共鳴する5つの
キーワード

誠実
Integrity

挑戦
Challenge

社会貢献
Commitment

団結
Teamwork

スペシャリスト
Expertise

新しいステージへ

新日本造機株式会社

代表取締役社長 迫田 浩隆

「徳は孤ならず、必ず隣有り」

迫田社長の座右の銘

徳を備えた人は、決して孤立することなく、必ず共鳴する理解者や助けとなる仲間が現れるという論語の言葉です。



共に「Global Top Player」を目指して

トリシマのステークホルダーの皆様、そして新たに仲間となるトリシマの皆さん、こんにちは。新日本造機の迫田です。

私たちはこれまで、広島・呉の地で蒸気タービンとプロセスポンプの技術を磨き、「SHIN NIPPON」ブランドとして世界中のお客様から信頼をいただけてきました。経営の根幹として大切にしてきたのは、「人を大切にす

る」という考え方です。まず何より従業員を大切にすること、それが取引先の皆様や地域社会、そしてお客様への価値提供につながると考えています。

の社員にはこれからもトリシマとともに歩んでほしいと願っています。今回のパートナーシップは、より柔軟で機動的にお客様に向き合う企業へと進化するための重要な一歩です。「独自の技術を極める専門メーカー」という共通のDNAを持つ両社が連携することで、大きな相乗効果を生み出せると信じています。

創立50周年に掲げた新日本造機の未来ビジョン「MaaS」のもと、私たちはトリシマと手を携え、世界中に新たな価値を届けていきたい。そのためにも現在、7月1日の始動に向け、準備を進めています。互いを尊重し切磋琢磨しながら、ともに世界を支える存在を目指していきましょう。

新日本造機の未来ビジョン「MaaS(マース)」って？

MaaS (Machinery as a Solution) は、新日本造機が創立50周年を機に策定した「ミライビジョン」。20年後の「なりたい姿」を明確に描き、社会に新たな価値を提供するための具体的なアクションを宣言したものです。そこには、「スペシャリスト」の技で困難な課題に「挑戦」し、約束を形にするという強い想いが込められています。環境・DX・多様性の3軸で変革を加速させ、社会に不可欠な存在として確かな未来を切り拓いていく——その志は、トリシマとも深く共鳴しています。

①
環境負荷の
低減

②
最先端技術に
よるDX推進

③
ダイバーシティ
の推進



最優秀賞

ジャパン・レジリエンス・アワード

2026

激甚化する水害から

ジャパン・レジリエンス・アワード 最優秀賞受賞の舞台裏

誇りと使命 — 私たちが選ばれた理由

国土強靱化の旗手として

この国を、もっとしなやかに、強く。

最近よく耳にする「レジリエンス」という言葉。直訳すれば「回復力」や「弾力」ですが、防災の世界では「大きな災害に見舞われても、しなやかに立ち直れる強さ」を意味します。この「災害に強い国・地域づくり」への貢献を讃えるのが、ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)です。

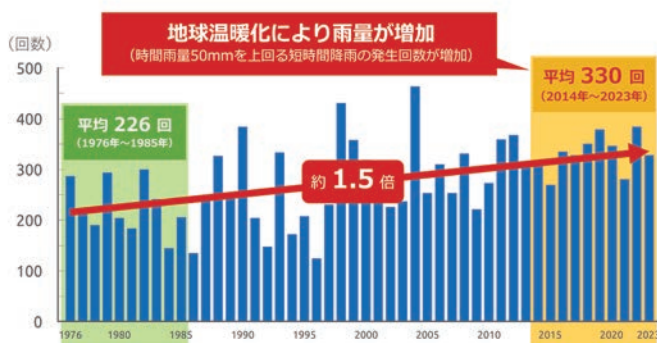
2026年4月21日。第12回目を迎えた同アワードにおいて、トリシマの「耐水モーター一体型ポンプ」が企業・産業部門における最高位の「最優秀賞」を受賞しました。

地球温暖化に伴い激甚化する水害。この避けられない自然の脅威に対し、ポンプのプロとして何ができるのか —。「ポンプの力で、暮らしと命と未来をつなぎ、サステナブルな社会を実現する」という私たちのパーパスを具現化した一つの答えが、今回、最高の形で認められました。

私たちトリシマが、製品開発に込めた想いや現場で証明された真価に迫ります。



「想定外」が日常になる時代に



地球温暖化の影響で、1時間雨量50mmを超える猛烈な雨の回数は、40年前の約1.5倍に増えています。もしも、私たちの街で大規模な氾濫が起き、多くのポンプ場が水没して排水機能が止まってしまうたら……。水が引くまでに2週間以上を要し、都市機能は完全にマヒしてしまいます。

この絶望的なシナリオを回避するために、トリシマは「排水機場が浸水しても稼働し続けるポンプ」を追求してきました。今回の最優秀賞は、この技術が社会を守る「不可欠なソリューション」であると高く評価されたものです。

引用:国土交通省ホームページ(水害レポート2023)
(https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/pdf/suigai2023.pdf)

かけがえのない日常を守り抜く

技術の神髄 — 常識を塗り替えた「耐水」

レジリエンスを支える4つの核心技术

従来のポンプ場では、モータなどの電気設備は浸水を避けるために上階に設置されていました。しかし、激甚化する豪雨によってその高さまで水が及び、運転不能になる事例が増えています。そこでトリシマは、ポンプとモータを完全に一体化した「水密構造」を実現。これにより、万一ポンプ場が浸水しても止まることなく稼働し、街の排水機能を守り続けます。

① 完全防水構造

耐水モータとポンプが一体化し、外部から水が侵入しない水密構造を採用。ポンプ場が浸水しても運転を継続します。

② 冷却水が不要

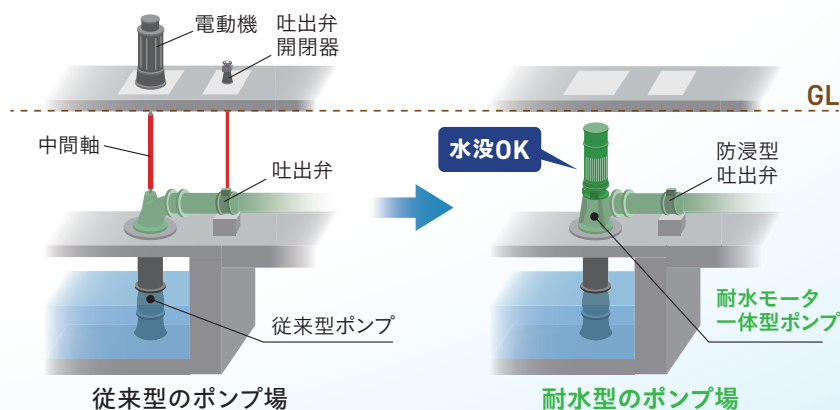
耐水モータは空冷ファンによる冷却機能を備えているため、冷却水を必要としません。

③ 建屋レス（屋外設置）が可能

雨ざらしの屋外にも直接設置可能。浸水しても運転が可能のため、建屋を建設する必要がなく、建設コストを大幅に削減できます。

④ 優れた耐震性

モータとポンプが一体となった構造であるため、地震の揺れに対しても高い性能を発揮します。



累計70台の導入実績：国内外のレジリエンス向上に貢献

トリシマの耐水モーター一体型ポンプは、2009年の初納入以来、累計70台の導入実績を誇り、多角的に社会へ貢献しています。たとえば、国交省の「WOW TO JAPANプロジェクト」では、50℃を越すパキスタンの酷暑に挑み、その圧倒的なタフネスを世界に証明しました。一方で、国内では「産学官連携プロジェクト」を通じ、備前焼の意匠を凝らしたユニークなポンプを提供。機械を「隠すべきもの」から「街の誇り」へと変え、防災をより身近なものへと昇華させています。



パキスタン：下水道技術海外実証事業



岡山県：井田排水機場デザインプロジェクト

5度の浸水を乗り越えて、 守り抜いた「黄金の収穫」

— 宮城県・後谷地排水機場の記録

宮城県大郷町、一級河川・吉田川のほとりに広がる豊かな田園地帯。

この風景を守る「要」である後谷地排水機場は、

激甚化する豪雨という抗いがたい脅威に晒されていました。

トリシマは、これまでの対策が限界を迎える中、

「守るべき実り」のために新たな技術でこの困難な課題に立ち向かいました。

※写真はイメージです。



最優秀賞

ジャパン・レジリエンス・アワード

2026

プロジェクトを支えた
人々の想い

絶対に、「災害に強いポンプ」をつくる。

開発者の願い



ちょうどこのポンプを開発していたときのことです。たまたま私の故郷を豪雨が襲い、親戚や知人が被災しました。自然の猛威を前に、「自分たちにできることは何だろう」と改めて考えたとき、頭ではなく実感として、絶対に「災害に強いポンプ」が必要だと思ったんです。ポンプの力で災害そのものを減らすことはできません。でも、日常を取り戻すまでの時間を少しでも縮めることや、二次災害を防ぐことならできる。その強い想いでつくったポンプです。

繰り返された水害、5度目で突きつけられた限界

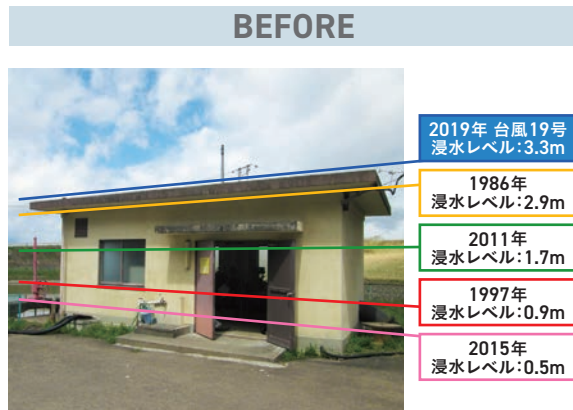
1982年の建設以来、後谷地排水機場の歴史は、まさに水害との戦いでした。2019年の台風19号までに受けた浸水被害は、実に通算5回。そのたびに電気設備の高上げなど懸命な対策を重ねてきましたが、5度目となったこの台風では過去最悪の3.3mという浸水を記録。既存のポンプ形式では機器の設置高さが物理的な限界に達しており、従来の延長線上ではこれ以上の防御は不可能な状況にありました。

水に浸かっても動き続けるという選択

そこで導き出された答えが、これまでの「嵩上げ」という発想を捨て、万一の浸水時でも運転を継続できる「耐水モーター一体型ポンプ」への刷新でした。

豪雨の中で真価を発揮した、「止まらない」ポンプ

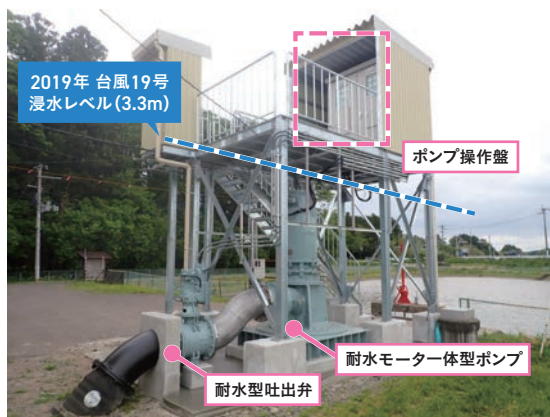
この新技術が真価を発揮したのは、導入翌年の2022年7月。宮城県を中心に激しい降雨が発生し、機場の北東10km地点では24時間で248mmという猛烈な雨を記録しました。機場内は再び2.4mまで浸水しましたが、耐水モーター一体型ポンプは濁流の中でも止まることなく排水を継続。稲の生存限界を前に速やかな排水を完遂し、その年の実りを見事に守り抜いたのです。



2021年
耐水モーター一体型ポンプに更新

2022年以降
浸水しても修繕不要

AFTER



もう、復旧に立ち尽くす姿は見たくない。

営業の誓い



長年、後谷地排水機場を見守る中で、繰り返される浸水被害の過酷さを痛感してきました。2019年には激甚災害に指定され、迅速な復旧が急務となりましたが、公共事業の「原形復旧」という原則の壁は極めて高かったです。

それでも農家の方々の想いを受け、宮城県の皆様と共に奔走し、納入に至りました。以降、再び豪雨に襲われたときも、被害はありませんでした。地域の方々の苦労を解消できた。営業としてこれほど嬉しいことはありません。

レジリエンスを体現するポンプを、広く伝えたい。

事務局の誇り



耐水モーター一体型ポンプは、国土強靱化に資する、まさにレジリエンスを体現した技術です。お客様からは高い期待を寄せられている一方で、公共事業における「特定技術への依存」は公平性の欠如とみなされる側面もあり、採用の障壁となることもあります。そんな中で

も、耐水モーター一体型ポンプの価値をより広く社会へ還元したいという思いから応募に至りました。今回の受賞を心から嬉しく思います。

先人の想いを受け継ぎ 豊かな農業を次代へ

いわきおがわえすじ 磐城小川江筋土地改良区

福島県南東部に位置し、夏と冬の温度差が比較的小さい温暖な気候に恵まれたいわき市。ここに、地域の農業を支える「磐城小川江筋土地改良区」があります。現在はその気候を活かした水稻栽培などが盛んですが、約400年前までの農業はため池や雨水に頼るほかなく、しばしば深刻な干害に見舞われていました。



小川江筋幹線用水路

32年に及ぶ難工事が紡いだ 「命の水路」

江戸時代初期、平藩は安定した米作りと新田開発を目的に、用水路「小川江筋」の開削に着手しました。作業はすべて手作業で行われ、鍬や鋤で土を掘り、「もっこ」という道具で土を運び、夜間に提灯の明かりを目印にして高低差を測ったといわれています。水路の行く手を阻む岩場は、鑿のみで岩を削り隧道（トンネル）を通しま

した。想像を絶する難工事の末、32年をかけて完成した全長約26kmの水路は、現在も広大な農地を潤すとともに、市民の水道原水としても利用されるなど、地域の暮らしに欠かせないインフラとなっています。

震災を乗り越え、 トリシマの技術で排水能力を回復

この歴史を継承し、地域の農業水利施設を管理しているのが、1951年に設立された磐城小川江筋土地改良区です。現在は小川江筋幹線用水路をはじめ、頭首工、



沢帯排水機場 排水ポンプ(横軸斜流ポンプ)



細谷排水機場 排水ポンプ(横軸斜流ポンプ)

5つの隧道、3つのサイフォン、2つのため池、5つの排水機場の管理を担っています。

そのうち、^{ざわみき ほそや しもにいだ}沢帯、細谷、下仁井田の3つの排水機場にトリシマ製のポンプが設置されており、完成以来、降雨で地区内に増水した雨水を横川へ強制排水する役割を担ってきました。ところが、2011年の東日本大震災により、広域で約50cmも地盤沈下したことで水を汲み上げる高低差(揚程)が拡大し、ポンプの排水量(吐出能力)が低下しました。その排水量を補うために稼働回数が極端に増加し、操作や管理に多大な労力を要する事態となりました。

そこで、排水能力の回復と管理の省力化を図るため、既設ポンプの修繕に加え、常時排水ポンプの増設や通報システムの導入が行われました。これにより、通常時は増設したポンプによる自動排水、洪水時には既設洪水用ポンプを追加稼働させるといった効率的な運用が可能になりました。

記録的な豪雨から農地を守り、次代へつなぐ

整備の効果は、2019年10月の東日本台風の際に証明されました。いわき市周辺では日雨量193mmという記

録的な豪雨に見舞われましたが、排水を続けたポンプによって地区内での^{たんすい}湛水被害を防ぐことができました。排水状況の改善は農地の汎用化を後押しし、現在は水稻だけでなく高収益作物であるネギの安定栽培を可能にするなど、地域の農業振興に大きく貢献しています。

取材にご協力いただいた磐城小川江筋土地改良区の矢吹様、金成様からは「常時排水ポンプの増設や通報システムの導入により、施設管理や操作に係る労力は大幅に改善されました」との評価をいただきました。

運転員の担い手不足や高齢化により、洪水時の迅速な対応が課題となるなか、機場の省力化には非常に助けられているとのことでした。

取材の最後に今後の目標をお聞きすると「生産の基盤を維持し、地域の農業を次の世代へつなげていくことです」と力強くおっしゃっていました。江戸時代から続く先人たちの想いは、土地改良区の方々の使命感として現在も受け継がれています。トリシマは今後もポンプメーカーとしてのノウハウを活かし、持続可能で豊かな農業を支えるパートナーとして地域に貢献していきます。

(取材/仙台支店 家田)



取材にご協力いただいた、磐城小川江筋土地改良区の皆さま

Project Highlights

01 止めない使命、支え続ける水

甲府市上下水道局 昭和浄水場向け配水ポンプ更新工事を受注

甲府市上下水道局 昭和浄水場は、一級河川釜無川の良質な地下水を水源として、昭和町、甲府市南部および中央市の一部に安全な飲料水を供給する基幹施設で、甲府の第2水源として1958年(昭和33年)から運用を続けています。16カ所の井戸の90mから124mの深さからくみ上げられる井戸水は、一年を通じ良好な水質であるため、消毒だけで送水することが可能です。

本施設では中央監視制御システムにより、24時間体制で水質・水量を管理しており、市民生活はもとより地域産業や公共施設を支える「ライフラインの要」として重要な役割を果たしています。

本浄水場の心臓ともいえる配水ポンプは、設置から30年以上にわたり安定した運転を続けてきましたが、24時間365日稼働し続ける設備であることから、将来にわたる安定供給を見据えた更新が求められていました。そしてこのたび、主要配水ポンプ5台の更新工事が計画され、総合評価方式による入札が行われました。入札における技術提案においては、限られた施工期間内で安全かつ確実な施工を可能とするトリシマの提案が高く評価されたこともあり、受注に至りました。

本施設は甲府市の水道供給を担っており、配水を停止させることができないため、施設を稼働させながらの施工となり

ます。そのため、断水リスクを最小限に抑える工程計画と万全の安全管理が不可欠です。「蛇口をひねれば水が出る」という当たり前の日常をこれからも守り続けるべく、発注者および施設管理者、協力会社の皆様と密接に連携しながら、全社一丸となって本工事に取り組んでまいります。


ポンプ名称	配水ポンプ
口径・形式	CDM300×200
台数	5台
原動機容量	132 kW



長年にわたり安全な水を供給してきた既設ポンプ

02

このエリアの記事については、冊子のみの掲載としており、
ブランクとさせていただきます。ご了承願います。



このエリアの記事については、冊子のみの掲載としており、
ブランクとさせていただきます。ご了承願います。

03 鉄鋼品質の要を担う高圧技術

日本製鉄 関西製鉄所の大阪地区(堺)向けデスケーリングポンプを受注

日本製鉄株式会社は、日本最大手であり世界有数の鉄鋼メーカーとして、日本国内および世界15ヵ国以上に製造拠点を展開しています。主力である製鉄事業に加え、エンジニアリング、ケミカル&マテリアル、システムソリューションの各事業を通じて事業領域を拡大しており、現在はカーボンニュートラル実現に向けた技術開発を推進しながら、グローバルな成長と変革を加速させています。

同社の関西製鉄所 大阪地区(堺)は、形鋼(H形鋼や鋼矢板など)の主要製造拠点として、高品質な形鋼製品を供給し、国内外の大型建造物やインフラ整備を支える重要な役割を担っています。

今回受注したデスケーリングポンプは、H形鋼の製造工程で使用されるものです。本更新にあたり、省エネルギー性お

よび運用効率の向上を目的とした技術提案を実施し、その結果、トリシマ製ポンプの品質・性能に加え、長期的な運用信頼性が高く評価され、採用に至りました。

トリシマは今後も、鉄鋼をはじめとする基幹産業分野において高付加価値なポンプ技術を提供し、ものづくり産業の発展と持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

ポンプ名称	デスケーリングポンプ
口径・形式	MHG3/11
台数	1台
原動機容量	820 kW

このエリアの記事については、冊子のみの掲載としており、
blankとさせていただきます。ご了承ください。

2026年度 入社式

4月1日に入社式が行われ、2026年度は66名(株式会社九州トリシマも含む)が入社しました。

原田CEO式辞(要約) —

新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。今日は1年で最もうれしい日です。

当社のポンプは社会の「心臓」です。水、食料、電力の供給に不可欠で、世界の電力の約3割がポンプに使われる中、私たちの仕事には世界を支える大きなやりがいと責任があります。

成長には時として厳しい環境も必要です。水不足という過酷な環境で甘くなるトマトのように、自らを厳しく鍛えてください。トリシマが大切にしている価値ある人間として「①心身ともに健康である、②プロになる、③努力の習性を身に付ける、④社会



入社宣誓

のルールを守る、⑤社会に対して恩返しする」を掲げます。

2050年の脱炭素社会の実現に向け、主役となり道を切り拓くのは皆さん自身です。世界中から集まった多様な同期は一生の財産となります。共に笑い、支え合い、困難を乗り越えていきましょう。皆さんの成長がトリシマの、そして世界の持続可能な未来へと直結します。誇りを持って、今日から共に力強い一歩を踏み出しましょう。

「健康宣言」を制定 このたび「健康経営」を本格的に導入していく決意として「健康宣言」を制定しました。

株式会社西島製作所 健康宣言

当社は、中期経営計画に掲げる「社員活力の最大化」を実現するため、多様な世代のプロフェッショナルが共に働く活気ある職場を目指しています。

従業員一人ひとりが心身ともに健康であり、その経験と才能を最大限に発揮できることが、当社の持続的な成長の基盤です。

私は、すべての従業員が「この会社で長く、元気に働きたい」と思える環境を整えるため、組織を挙げて健康経営を推進することをここに宣言します。

代表取締役CEO 原田 耕太郎



また、健康経営を推進していくための方針も掲げています。

① 心の健康を守る組織文化の醸成

- ・メンタル不調の未然防止、対話の活性化、および早期相談体制の構築
- ・誰もが安心して挑戦できる職場環境の整備

② 生涯現役を支える身体的健康の増進

- ・安全な職場づくりの推進と運動機能の支援
- ・再検査対象者への後追い強化や重症化予防の徹底

③ 柔軟で多様な働き方の推進

- ・各ライフステージに応じた柔軟な働き方の尊重
- ・ワークライフバランス向上を通じた、従業員エンゲージメントの強化

2025年度 改善発表会

生産本部および九州トリシマ合同の「改善発表会」が3月20日に開催されました。各チームが日々の業務改善とその成果を共有し、さらなる効率化と品質向上を目指す重要な場です。

年々進化を遂げる発表内容やプレゼンテーションは、2025年度においても甲乙つけ難い力作が揃いました。厳正な審査の結果、上位3部門には常識に切り込んだ3チームが選出されました。

改善はゴールではなく、浮いた時間を「次の価値」へ繋げるスタートです。次年度もさらなる変革に挑戦します。



第1位：試験課

全体最適を優先し、工場全体の停滞を排除した工程変更を完遂。

第2位：組立工作課

50年来の「赤ペン塗装」を廃止し、11時間のリードタイム短縮を実現。

第3位：倉庫課

社内増床を徹底し、外部倉庫費を大幅削減。

トリシマの製品が 「国際展開 技術集2026」に掲載



耐水モーター体型ポンプ



スーパーエコポンプ



超電導モータ
液化水素ポンプ

世界省エネルギー等ビジネス推進協議会(JASE-W)の「国際展開技術集2026」に、トリシマの耐水モーター体型ポンプ、スーパーエコポンプ、そして高温超電導モータを搭載した大流量・高効率の液化水素ポンプが掲載されました。今回の掲載は、長年培ってきたトリシマのポンプ技術が、「地球規模の課題解決に不可欠な技術」として高く評価された証と言えます。

JASE-Wとは：日本の先進的な省エネ・再エネ技術を海外へ普及させるため、官民一体で活動する組織。

国際展開技術集2026 ▶



2025年度 決算：6年連続の増収・過去最高売上を達成

単位：億円

2025年度の売上高は「6年連続の増収」となり、過去最高を更新しました。受注高も過去最高に迫る高い水準を記録しています。国内ビジネスが堅調に推移したことに加え、生成AIの急速な普及に伴うデータセンター向けの電力インフラ需要を捉え、北米を中心とする発電分野の受注が大きく伸長したことが寄与しています。

これまで高い比重を占めていた海水淡水化分野から、今年度は発電・送水分野へと、市場の動向に合わせて

柔軟に製品構成を変化させました。世界36拠点の技術・製造・販売・サービスが「One Torishima」として一丸となって、この機動的な市場対応を支えています。

また、収益性の改善と生産体制の強化も着実に形になっています。インドへの投資をはじめ、韓国や英国における機械加工会社の子会社化など、グループ全体で内製化を進めたことで、生産基盤がさらに強化されました。

これら国内外における売上の拡大は、市場におけるトリシマのポンプの稼働台数(インストールベース)のさらなる拡大につながっています。トリシマでは、この拡大するインストールベースに対し、高いレベルのアフターセールスサービスを提供する

	2024年度	2025年度	前年度比	
			額	率
受注高	956	949	▲7	▲0.7%
売上高	865	929	+64	+7.4%
売上総利益 (売上総利益率)	235 (27.2%)	243 (26.2%)	+8 (▲1.0pt)	+3.4%
営業利益 (営業利益率)	54 (6.2%)	50 (5.4%)	▲4 (▲0.8pt)	▲7.4%
経常利益	45	52	+7	+15.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	41	60	+19	+46.3%

サービス拠点への投資を進めています。常にお客さまに寄り添う信頼性の高いサービス体制を通じて、インフラ市場のあらゆる場面でお客さまの「Lifetime Benefit(生涯利益)」の最大化に貢献するとともに、将来にわたって安定的に収益を生み出す基盤を整えています。

利益面では、営業利益は減少したものの、経常利益は増加となりました。全社の挑戦の成果である「高い水準の受注残高」を原動力に、私たちは100年先へ続く成長の道を、全員の力で一歩ずつ進めていきます。

新日本造機を迎えたら、
中期経営計画も
アップデートするよ!



エジプト国家プロジェクト 「Future of Egypt」ポンプ場開所式典に トリシマ代表らが出席

5月17日(現地時間)、エジプトの巨大国家事業「Future of Egypt」のポンプ場開所式典が執り行われました。式典には、エジプトのAbdel Fattah el-Sisi大統領や首相をはじめとする政府高官、日本側からは駐エジプト特命全権大使が列席され、トリシマからはAlister Flett COOとAshraf Saleh中東地域ゼネラルマネージャーが出席しました。

同プロジェクトは、人口増加に伴う食料自給率の向上や砂漠の緑地化を目的とした同国最大級の国家農業・インフラ開発(別名「ニュー・デルタ」プロジェクト)です。この超大型事業において、トリシマは計49台の大型ポンプを納入し、220万フェダン(約92万ヘクタール)に及ぶ広大な農地のかんがいを支えています。

海外の技術ドキュメンタリー映像では、砂漠に巨大な人工河川を築くプロジェクトの全貌が圧倒的な迫力で描かれています。砂漠へ命の水を送り届けるトリシマポンプが、エジプトの人々の豊かな暮らしと未来の発展に大きく貢献しています。



▼ 迫力のドキュメンタリー映像はこちら!

「エジプトがサハラ砂漠に築いた巨大人工河川の全貌」



出典：Mandarin Tech / ナイル川から数百キロ離れた砂漠を一大農業拠点へ変革する、21世紀の偉大な挑戦を紹介した映像です。10分12秒あたりからトリシマポンプが登場します。

トリシマが挑む「アジャイル革命」

未来を切り拓く新しい働き方

第4回

企業の枠を超えた「知見の持ち寄り」が、現場の壁を突破する

3月9日、トリシマ本社を会場として「第5回 Agile KANSAI Meetup」を開催しました。当日は関西を拠点とする7社から、総勢30名もの技術者やリーダーが集結。会場は開始早々から熱い活気に包まれました。

この活動の原点は、「他社の現場はどうなっているのか?」という素朴な好奇心でした。そこで、トリシマのコンサルティングを担当いただいている株式会社永和システムマネジメントの天野様に相談したところ「では、導入している会社に声をかけてみましょう!」と快諾いただき、2024年5月の初開催（同誌2024年8月発行の229号に掲載）から、今ではさらに活発なコミュニティへと成長しました。現在では場所の都合上、参加人数を制限せざるを得ないほどの人気を博しています。

今回のプログラムも、非常にワクワクする内容でした。コニカミノルタ株式会社の「心理学を学び活用することで偉大なスクラムマスターを目指す」では、スクラムマスターがチームに貢献するためにも、実践から得られる経験知だけでなく、学術的な知見も必要だと痛感させられるものでした。

また、三菱電機株式会社による「紙飛行機ワークショップ」は、座学と体験を織り交ぜた濃厚な時間となりました。特に印象的だったのは、参加者が声を揃えて口にしていた

「共有の大事さ」です。チーム内だけで完結するのではなく、チーム外の人から成功体験やノウハウを聞き出し、それを取り入れた結果、パフォーマンスが劇的に変化したチームがほとんどでした。こうした気づきが得られるのも「アジャイルを広めたい」という熱意と、関西のモノづくり企業の輪が広がったからこそです。



この活動を続ける最大の意義は、アジャイルという共通言語を通じて「企業の壁」を越えることにあります。一社単独では解決が難しい複雑な課題も、企業の枠を超えて異なる文化や知見を持ち寄ることで、新しい解決策のヒントが見えてきます。他社の事例を鏡として自らを見つめ直し、共に成長する。このMeetupから生まれるエネルギーを、トリシマのさらなる進化へと繋げていきます。

(文：トリシマ アジャイル推進チーム)

教えて!
いーちゃん先生!!



「アジャイルってIT業界だけのもの?」

「アジャイル」はIT用語と思われがちですが、実はモノづくりの現場でも急速に広がっています! 特に変化の激しい自動車業界では、多くのメーカーが設計やプロセスに積極的に導入しています。ハードウェアは一度作ると直しにくいイメージがありますが、アジャイルを取り入れることで無駄を省き、試作と改善を高速に繰り返すことが可能になります。柔軟なモノづくりに、今や欠かせない手法なのです。

アジャイル開発に興味を持ったら、**井伊までご連絡を!** 社内・社外の多くの方から連絡をいただくと嬉しいです。

私が答えます



情報システム室
課長 井伊 秀樹

新入社員 若狭湾研修を実施 4月2日～4日

国立若狭湾青少年自然の家にて2泊3日の新入社員研修を行いました。今回は「人生すごろく」を通じて過去を語り合い、互いの原点に触れることで、例年以上に深く理解し合えるスタートとなりました。

翌日は、ハイキングとカッターボートを同日に詰め込んだハードスケジュール。しかし、かつてない長距離を漕ぎ切った先には、好条件が重なった時にしか現れない絶景が待っていました。

限界を共に乗り越え、一生モノの同期の絆を刻んだ3日間となりました。

人生すごろく



ハイキング



カッターボート



スポーツ大会



プログラム内容 /

1日目

- ・人生すごろく
- ・グループワーク

2日目

- ・ハイキング
- ・カッターボート
- ・グループワーク

3日目

- ・スポーツ大会
(バレーボール)



新入社員の声

チームビルディング研修はとても貴重な経験になりました。日本人および外国人の同僚と交流し、良い関係を築くことができうれしかったです。ハイキングやカッターボート、バレーボール、ラジオ体操などの活動はとても楽しく、チームワークの向上につながりました。また、講師の方々からの技術的な課題やグループワークを通して、多くのことを学ぶことができました。

研修を通して、同期同士の親睦を深めることができました。どの活動も他者との協力が必要だったことから、改めて同期とのつながり、社会に出る上での協調性の重要性を体感できました。今後もより同期との関係性を大切にしながら、業務に向き合いたいと思いました。

年齢、学歴関係なく協力してクリアするプログラムが多く、研修前よりも同期の絆が深まったと感じました。

最初は不安なことが多かったけれど、終わってみると同期との仲や最後までやりきる力など得られたものが多かったです。

初めて会う人たちとの研修は最初は不安でいっぱいでしたが、日を重ねるごとに交流が広がってだんだんと楽しくなっていました。ハイキングやカッターボートも大変でしたが力を合わせることによってやっとできたものなので価値ある時間になったと思います。研修で学んだことや人とのつながりを今後の仕事に活かしていきたいです。